

平成27年度 全国学力・学習状況調査

(平成27年4月21日 実施)

高石市立小・中学校

調査結果概要

平成27年10月

高石市教育委員会

調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査内容

- …教科に関する調査
- | | | |
|-------------|------------------|----------------------|
| 小学校： | 国語 A・算数 A | (主として「知識」に関する問題) |
| | 国語 B・算数 B | (主として「活用」に関する問題) |
| | 理科 | (主として「知識」「活用」に関する問題) |
| 中学校： | 国語 A・数学 A | (主として「知識」に関する問題) |
| | 国語 B・数学 B | (主として「活用」に関する問題) |
| | 理科 | (主として「知識」「活用」に関する問題) |

…アンケート調査 児童生徒対象・学校対象

(3) 調査対象

小学校第 6 学年 (高石市：7 校 児童数：5 2 7 人) **中学校第 3 学年** (高石市：3 校 生徒数：5 4 8 人)

(4) 調査実施日

平成 27 年 4 月 21 日 (火)

(5) 調査結果の取扱いについて

平成 27 年度調査は、全校調査で行われた。
 本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。
 本調査により測定できる学力は**特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。**

平成 27 年度 本市の校種・教科・区分別正答率

小学校		平均正答率		
		高石市(公立)	大阪府(公立)	全国(公立)
国語	A 区分	67.6	67.6	70.0
	B 区分	59.3	62.7	65.4
算数	A 区分	74.1	74.8	75.2
	B 区分	41.9	44.1	45.0
理科		57.4	57.3	60.8

中学校		平均正答率		
		高石市(公立)	大阪府(公立)	全国(公立)
国語	A 区分	75.6	74.4	75.8
	B 区分	64.9	64.8	65.8
数学	A 区分	66.7	64.3	64.4
	B 区分	43.5	41.4	41.6
理科		51.5	50.8	53.0

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。

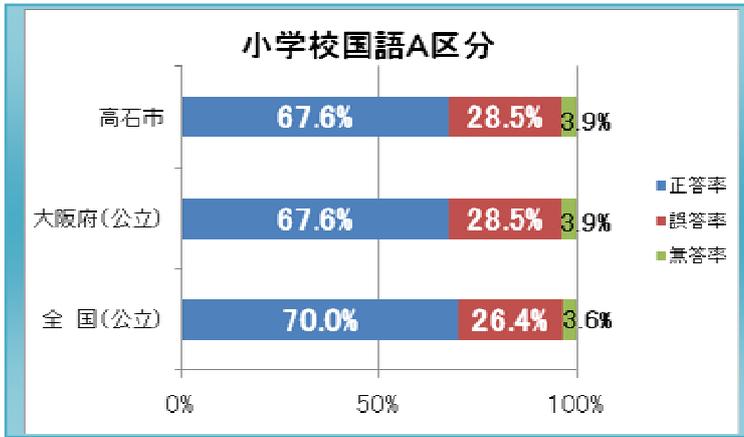
平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

小学校では、国語 A 区分(主として「知識」に関する問題)と理科は、大阪府平均と同等、全国平均を下回る結果です。国語 B 区分(主として「活用」に関する問題)・算数 A・B 区分は、大阪府平均・全国平均をともに下回る結果です。

中学校では、国語 A 区分(主として「知識」に関する問題)・B 区分(主として「活用」に関する問題)と、数学 A・B 区分、理科は大阪府平均を上回る結果で、数学 A・B 区分は全国平均を上回る結果です。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要 【小学校】

小学校国語（A区分）結果から見てくる課題



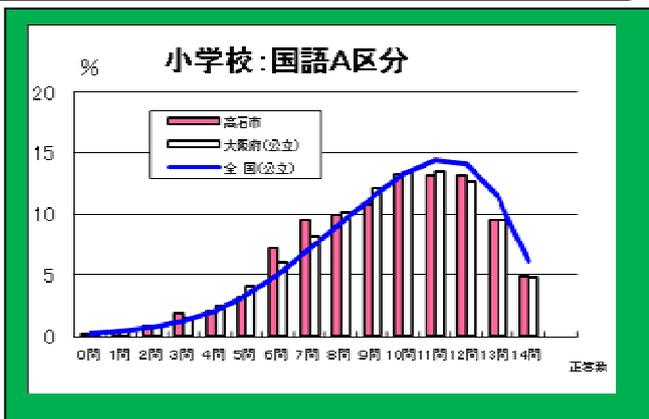
A区分問題（主として「知識」に関すること）

全国の平均正答率が70.0%であるのに対し、高石市は67.6%であり、2.4ポイント下回った。

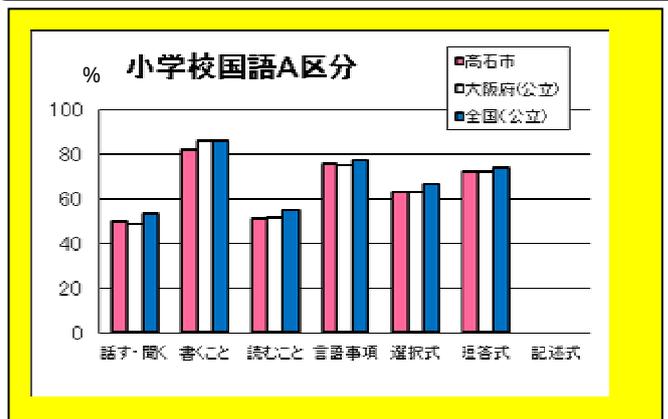
大阪府の平均正答率は、67.6%であり、大阪府平均と同等であった。

無答率においては全国(公立)の状況より0.3ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

A区分に見られる傾向について

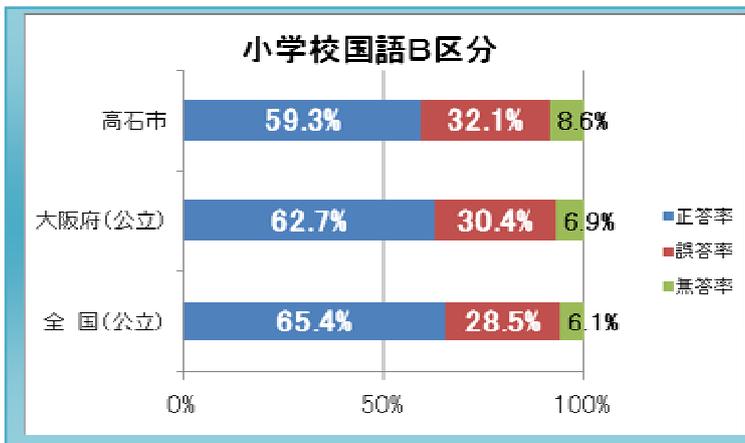
A区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では、全14問中0～5問正答した人の割合が、昨年度と比べて全国同等近くに減少し、6～8問正答した人の割合が、全国よりも多くなっており、一定の成果がみられます。しかし、依然として基礎・基本の定着に課題がみられます。

領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。特に、「書くこと」「読むこと」の領域で、全国(公立)の正答率との差が大きくなっており、課題があります。

設問別にみると、基礎的な漢字の読み書きを問う問題では、6問中4問において、全国を上回る、または同等の正答率となっており、一定の改善が見られます。しかし、その他の設問では、正答率が全国よりも低い傾向がみられます。特に、「新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えることができるかどうかをみる」問題で、全国(公立)の正答率との差が大きくなっており、「文章の内容を的確に押さえて要旨を捉え、文章に対する自分の考えを明確にもつ力」に課題があります。

無答率については、全国よりも若干数値は高くなっていますが、昨年度よりも全国との差が小さくなっており、一定の改善がみられます。

小学校国語（B区分）結果から見える課題



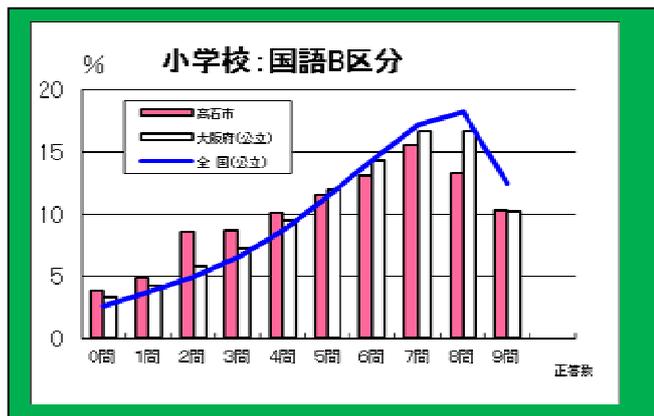
B区分問題（主として「活用」に関すること）

全国の平均正答率が65.4%であるのに対し、高石市は59.3%であり、6.1ポイント下回った。

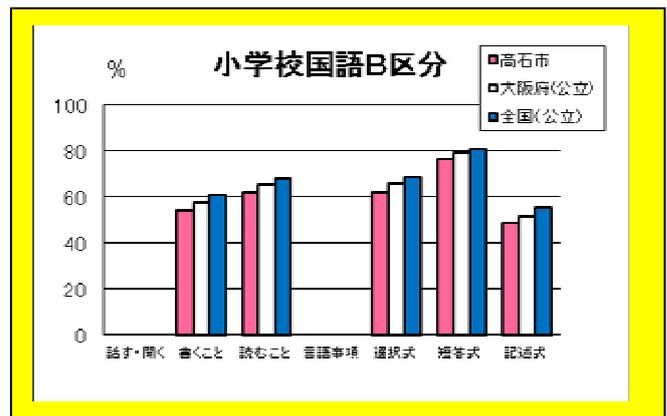
大阪府の平均正答率は、62.7%であり、3.4ポイント下回った。

無答率においては全国の状況より2.5ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

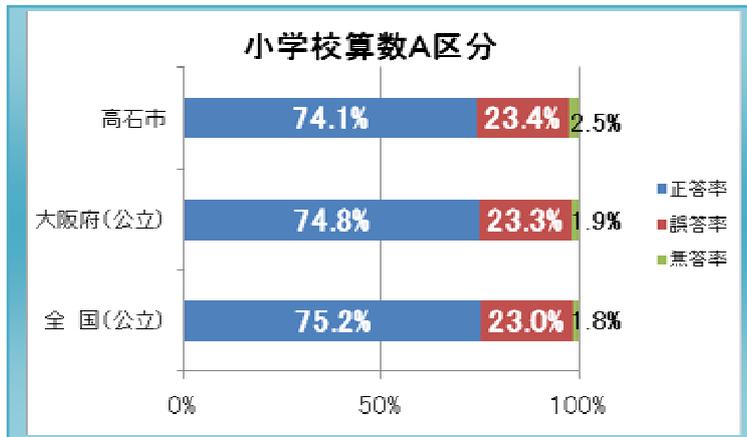
B区分に見られる傾向について

B区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では、全9設問中0～5問正答した人の割合が、全国よりも多くなっており、活用力に課題がみられます。

領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低くなっています。特に、「登場人物の気持ちの変化を想像し、声に出して読むときの工夫とその理由を書く」問題（P17参照）で、全国の前正答率との差が大きくなっており、「音読における工夫の観点をつえ、情景や場面に適応する工夫を考える力」に課題があります。無答率については、全国よりも数値は高くなっており、引き続き課題ですが、昨年度よりも全国との差が小さくなっており、一定の改善がみられます。

小学校算数（A区分）結果から見える課題



A区分問題（主として「知識」に関すること）

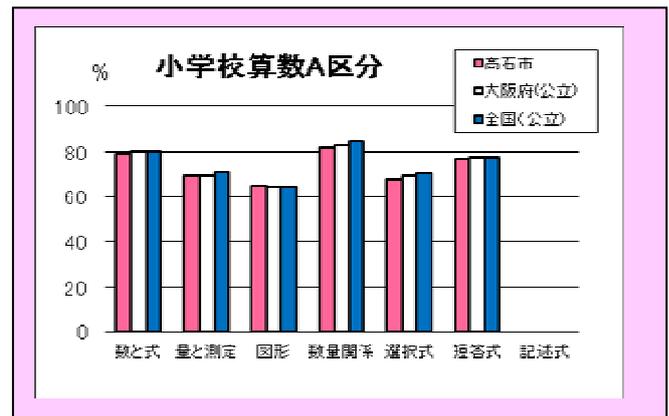
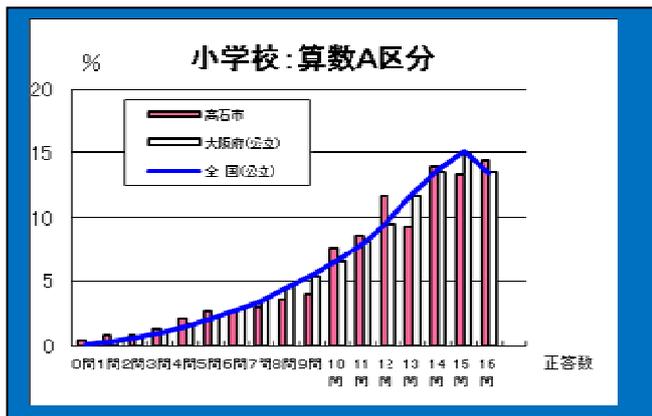
全国平均正答率が75.2%であるのに対し、高石市は74.1%であり、1.1ポイント下回った。

大阪府の平均正答率は、74.8%であり、0.7ポイント下回った。

無答率においては全国状況より0.7ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



A区分に見られる傾向について

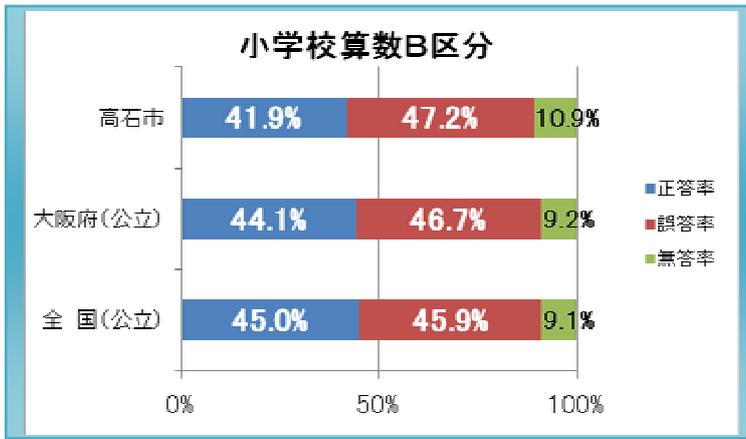
A区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では、全16設問中10～16問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、基礎・基本の定着における中間層の底上げには一定の成果がみられます。

領域別にみると、「図形」の領域で、正答率が、全国より若干上回っています。他の領域は、全国より若干下回る結果となっています。

設問別にみると、「計算の意味理解、技能」を問う問題の正答率は、全国と同等であり、一定の成果がみられます。しかし、その他の設問の正答率は、全国よりもやや低い傾向がみられます。特に、「計算の結果の見積りをする」「測定する角の大きさの見当を付ける」問題（P19参照）で、全国正答率との差が大きくなっており、「見通しをもって考え、答えを見積もる力、見当を付ける力」に課題があります。

無答率については、全国よりも若干数値は高くなっていますが、昨年度よりも全国との差が小さくなっており、一定の改善がみられます。

小学校算数（B区分）結果から見える課題



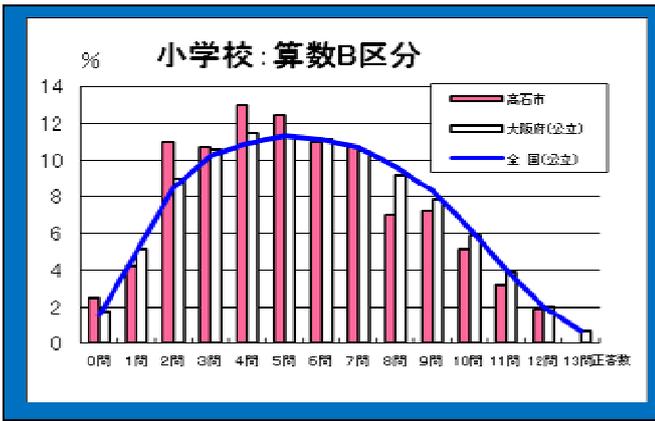
B区分問題（主として「活用」に関すること）

全国平均正答率が45.0%であるのに対し、高石市は41.9%であり、3.1ポイント下回った。

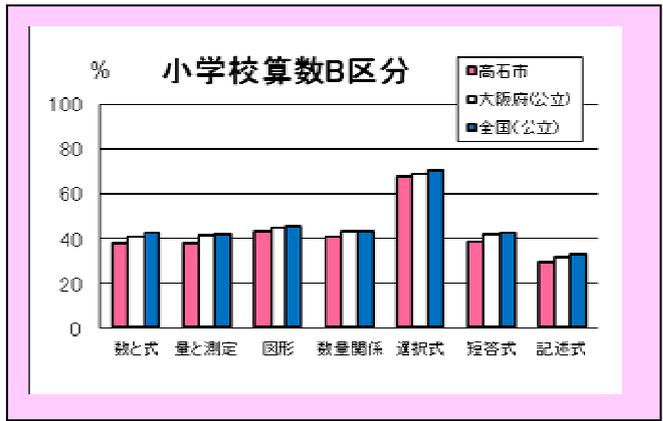
大阪府の平均正答率は、44.1%であり、2.2ポイント下回った。

無答率においては全国の状況より1.8ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



B区分に見られる課題等について

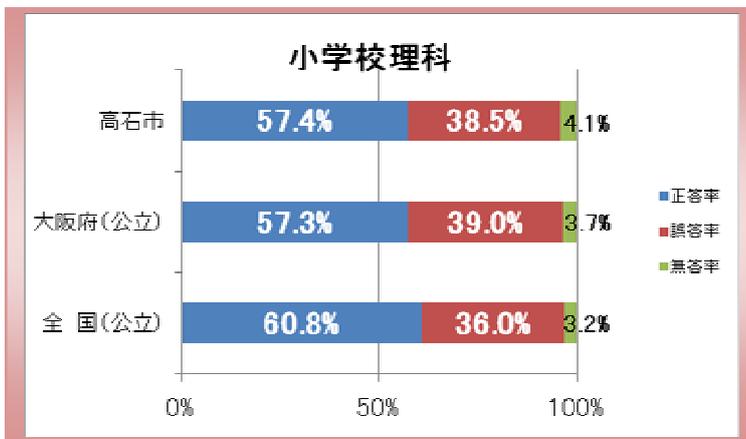
B区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では、全13設問中、0～5問正答した人の割合が全国よりも多くなっていることから、子どもたちの活用力の底上げが課題としてあげられます。領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。特に、「数と計算」の領域で、全国正答率との差が大きくなっており、課題があります。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低い傾向がみられます。特に、「示された考えを条件を変更した場面に適用し、問題を解決する」問題で、全国正答率との差が大きくなっており、「示された事象において、数学的に筋道を立てて思考、判断、表現する力」に課題があります。

無答率については、昨年度より引き続き、全国よりも数値は高くなっています。

小学校理科

結果から見えてくる課題

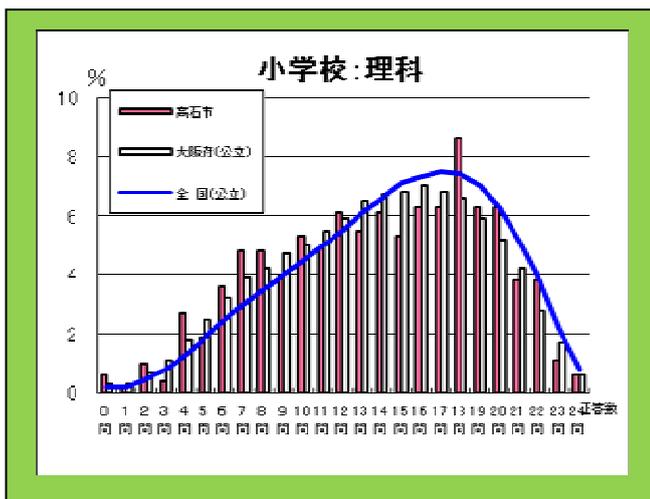


全国の平均正答率が 60.8%であるのに対し、高石市は 57.4%であり、3.4 ポイント下回った。

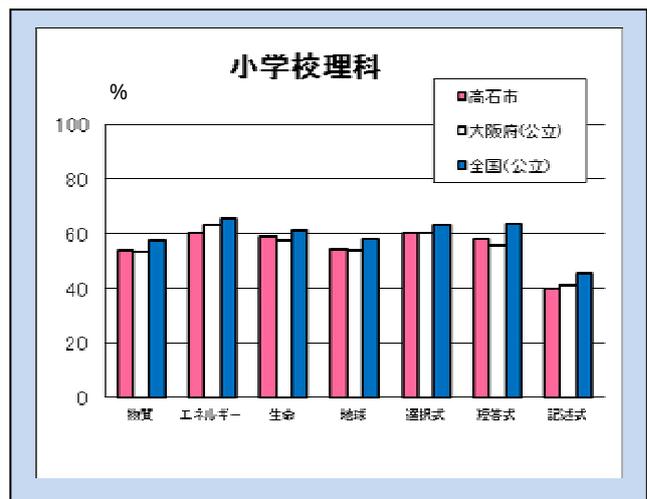
大阪の平均正答率は、57.3%であり、0.1 ポイント上回った。

無答率においては全国の場合より 0.9 ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



理科に見られる傾向について

正答数の分布では、全 24 設問中 0 ～ 8 問正答した人の割合が全国よりも多くなっていることから、理解が不十分な子どもの力の底上げが課題としてあげられます。

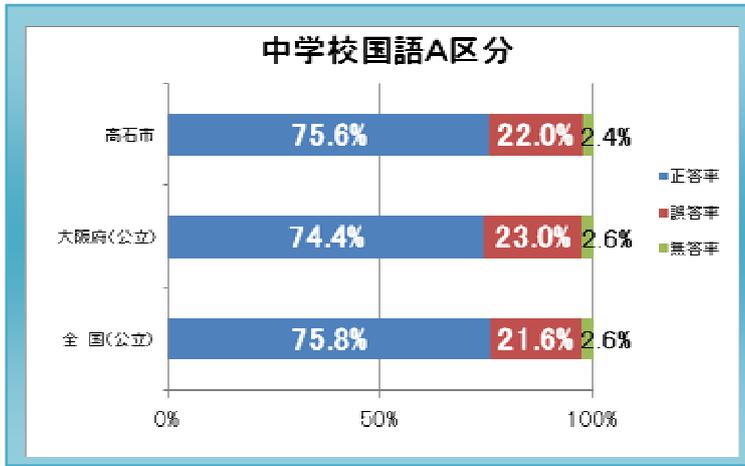
領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。特に、「エネルギー」の領域で、全国の正答率との差が大きくなっており、課題があります。

設問別に見ると、各設問の正答率は、全国よりも低い傾向がみられます。特に、「電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善する」問題（P 20 参照）で、全国の正答率との差が大きくなっており、「事象に科学的な規則性を適用し、科学的な思考、表現をする力」に課題があります。

無答率については、全国よりも若干数値は高くなっていますが、前回よりも全国との差が小さくなっており、一定の改善がみられます。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要 【中学校】

中学校国語（A区分）結果から見えてくる課題



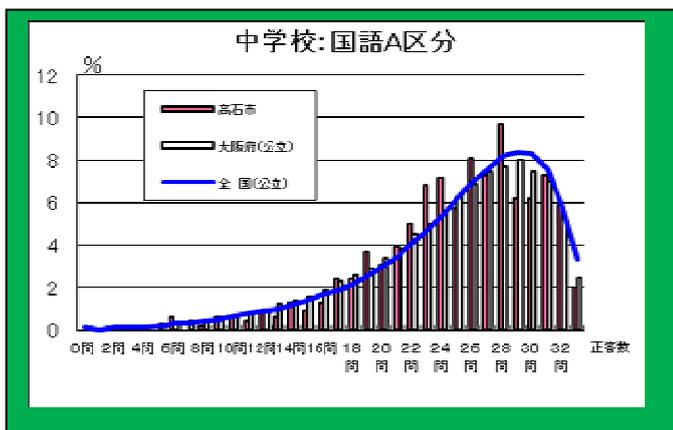
A区分問題（主として「知識」に関すること）

全国の平均正答率が75.8%であるのに対し、高石市は75.6%であり、0.2ポイント下回った。

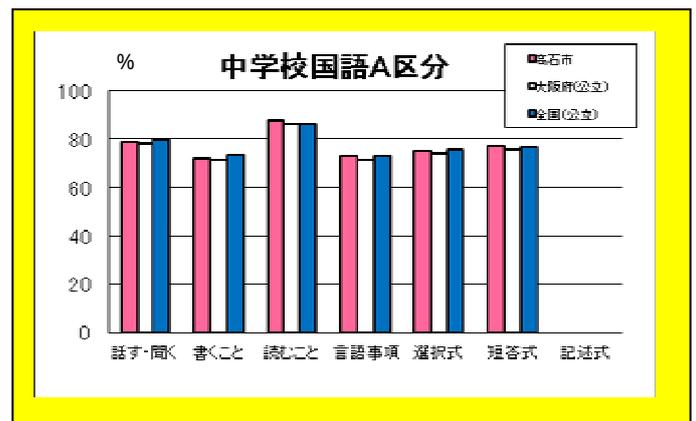
大阪府の平均正答率は74.4%であり、1.2ポイント上回った。

無答率においては全国の状況より、0.2ポイント低くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

A区分に見られる傾向について

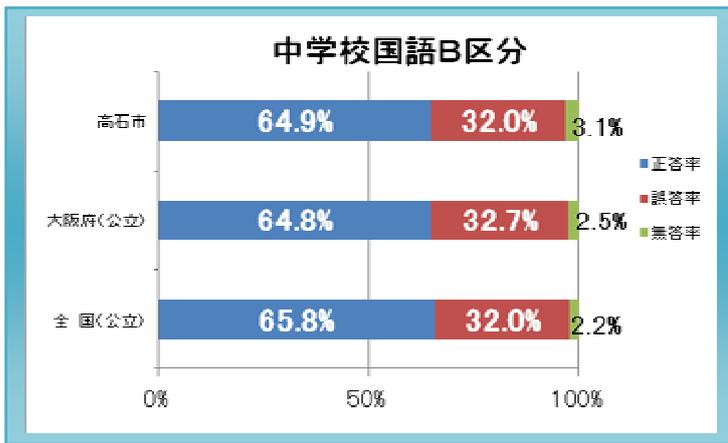
A区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全33設問中17～28問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。0～5問正答した人の割合は全国に比べて低く、課題であった基礎・基本の定着には一定の成果がみられます。

領域別にみると「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、昨年度から引き続き全国と比べて正答率が下回りました。

設問別に見ると「短答式」については、全国を上回る結果ですが、「選択式」の正答率は全国よりも低くなっています。特に、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと」(P21参照)や「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」ことに課題があります。文書を書く際には、目的や意図に応じて、読み手に効果的に伝わるように書く等の学習に取り組む必要があります。

無答率については、全国よりも若干低くなっており、昨年度に続き改善がみられます。

中学校国語 (B 区分) 結果から見える課題



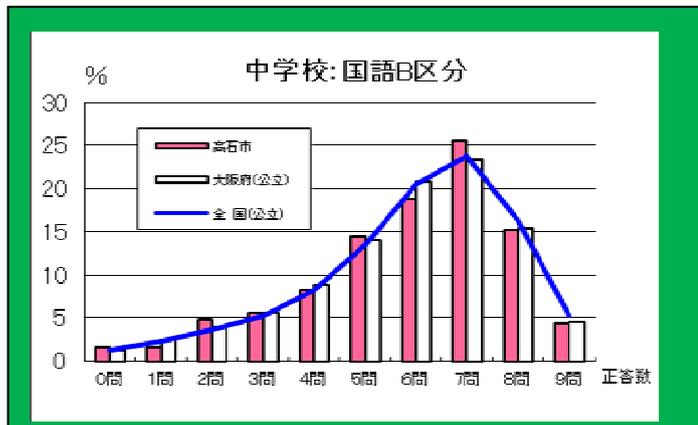
B 区分問題 (主として「活用」に関すること)

全国の平均正答率が 65.8% であるのに対し、高石市は 64.9% であり、0.9 ポイント下回った。

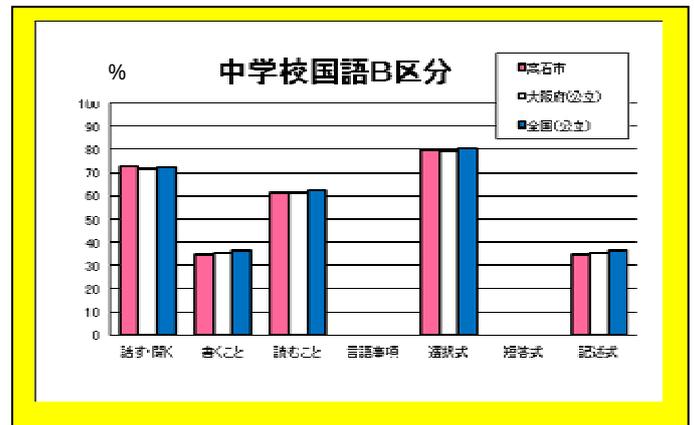
大阪府の平均正答率は 64.8% であり、0.1 ポイント上回った。

無答率においては全国の状況より 0.9 ポイント高

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略標記しています。

B 区分に見られる傾向について

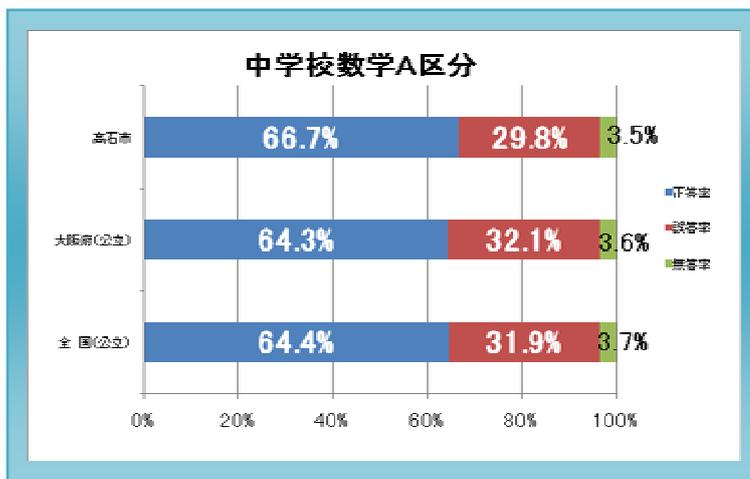
B 区分 (主として「活用」に関する問題) において、正答数の分布では全国と比べて、全 9 設問中 0 ~ 5 問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、活用力に課題がみられます。

領域別に見ると、昨年度と引き続き「書くこと」、「読むこと」について、全国よりも低い正答率になっています。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられますが、全国平均よりも全体的に低い結果になっており、課題があります。特に、「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くこと」や「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと」について、大きな課題があります。今後も継続して課題に沿った「書くこと」の指導の充実に努める必要があります。

無答率については、昨年に引き続き全国よりも数値は高くなっています。

中学校数学（A区分）結果から見えてくる課題



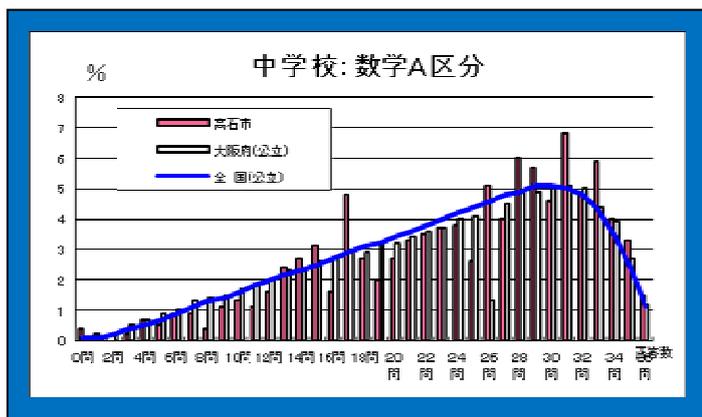
A区分問題（主として「知識」に関すること）

全国の平均正答率が64.4%であるのに対し、高石市は66.7%であり、2.3ポイント上回った。

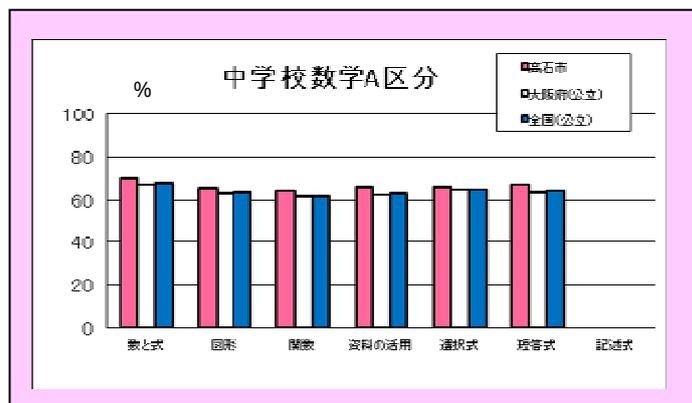
大阪府の平均正答率は64.3%であり、2.4ポイント上回った。

無答率においては全国の状況より0.2ポイント低くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



A区分に見られる傾向について

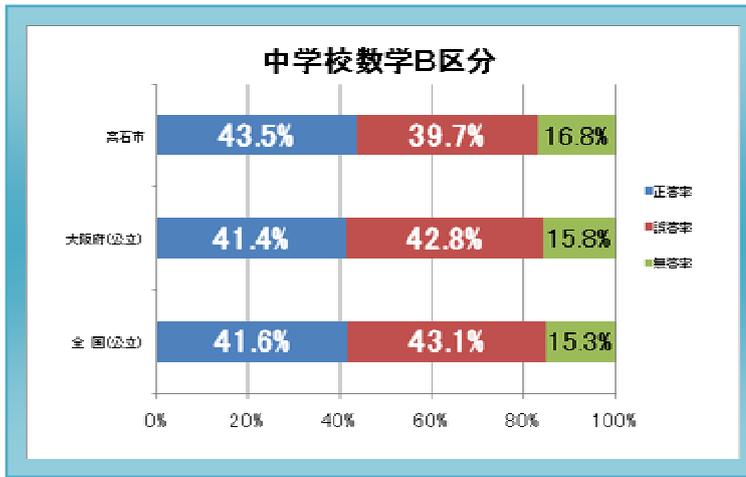
A区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全36設問中31～36問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。一方で、0～4問正答した人の割合も多くなっており、昨年度と引き続き、基礎・基本の定着にさらなる徹底が必要になります。

領域別にみると、すべての領域、問題形式の正答率について、全国を上回りました。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられます。特に、「数量の関係を文字式に表わすこと」(P21参照)や「証明の必要性和意味理解」を問う問題について、課題がありました。事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表わす学習や帰納と演繹の違いを理解し、証明の必要性和意味を深める学習に取り組む必要があります。

無答率については、全国よりも低くなっており、昨年度より改善しています。

中学校数学 (B 区分) 結果から見えてくる課題



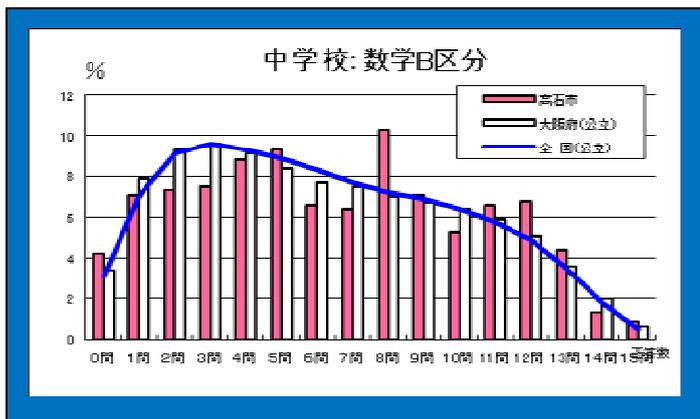
B 区分問題 (主として「活用」に関すること)

全国の平均正答率が 41.6% であるのに対し、高石市は 43.5% であり、1.9 ポイント上回った。

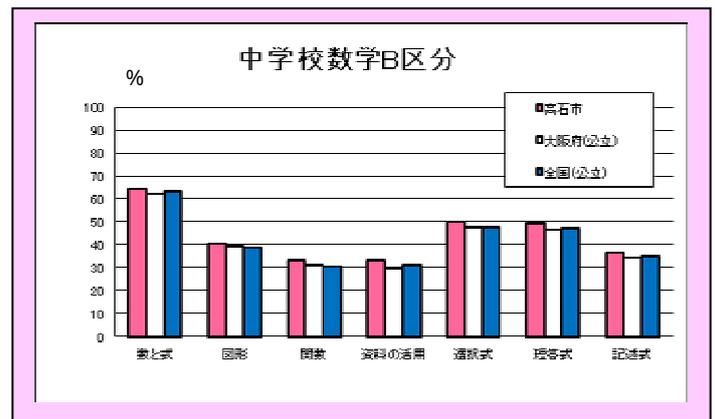
大阪府の平均正答率は 41.4% であり、2.1 ポイント上回った。

無答率においては全国の状況より 1.5 ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



B 区分に見られる傾向について

B 区分 (主として「活用」に関する問題) では、正答数の分布では全 16 設問中 12 ~ 15 問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。しかし、0 ~ 2 問正答した人の割合も全国と比べて多いため、今後も生徒一人ひとりの課題に正対した取組みが必要となってきます。

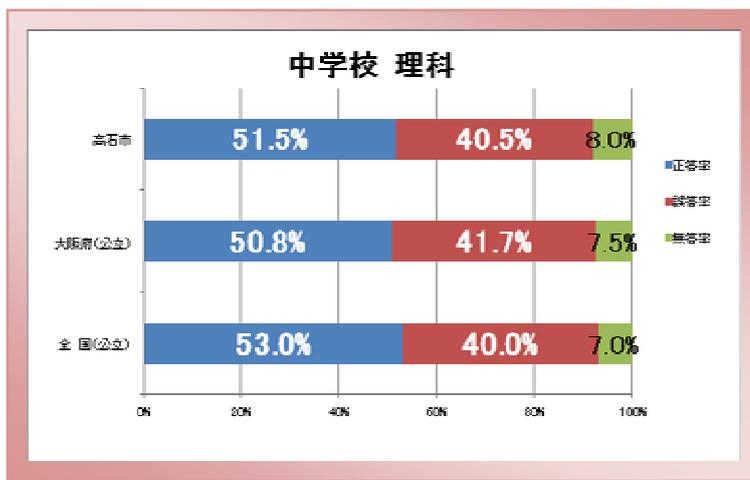
領域別にみると、A 区分同様すべての領域、問題形式の正答率について、全国を上回りました。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国平均よりも高い結果になっております。特に、「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること」や「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄が成り立つ理由を説明すること」(P22 参照) に課題があります。事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択する学習に今後もさらに取り組む必要があります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっていますが、昨年度よりも改善がみられます。

中学校理科

結果から見てくる課題

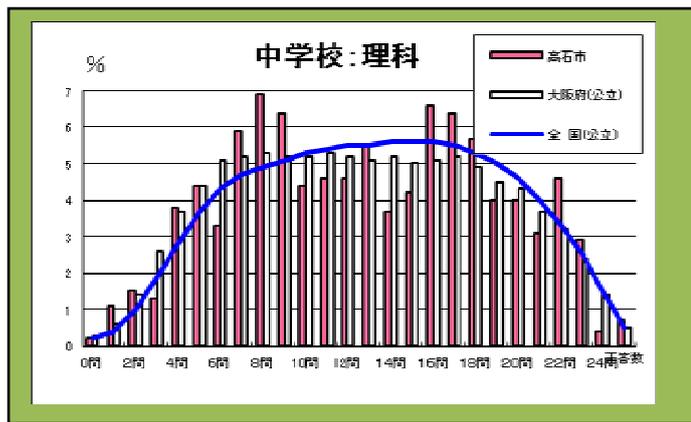


全国の平均正答率が53.0%であるのに対し、高石市は51.5%であり、1.5ポイント下回った。

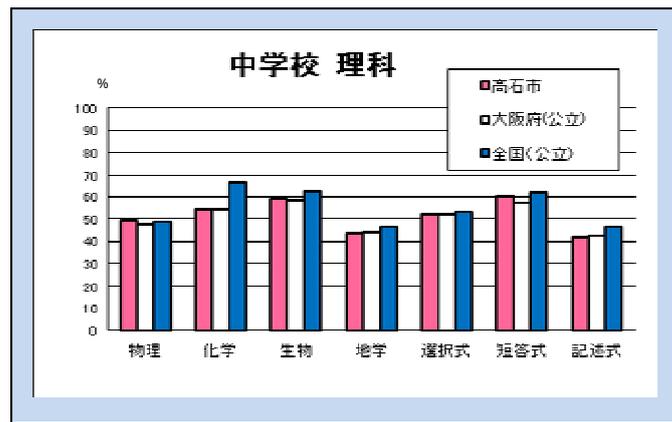
大阪府の平均正答率は50.8%であり、0.7ポイント上回った。

無答率においては全国の状況より1.0ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



理科に見られる傾向について

正答数の分布では全25設問中22・23問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。一方で、1～5問正答した人の割合も多くなっており、前回に引き続きよく理解できている子どもと、理解が不十分な子どもの二極化の傾向があることがわかります。

領域別にみると、「化学」「生物」の正答率について、全国を大きく下回りました。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられます。特に、「水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けてとらえること」を問う問題や「資料をもとに他者の考察を検討して改善し、事象と関連づけて正しく説明すること」を問う問題(P23参照)に課題がありました。観察・実験の結果を分析して解釈する学習や事象に対して、多面的・総合的に思考する学習に今後も継続して取り組む必要があります。

無答率については、全国よりも高くなっておりませんが、前回よりも改善がみられます。

質問紙調査の結果概要

結果から見えてくる課題

単位は%

	質問項目		高石市			全国		
			H25	H26	H27	H25	H26	H27
①	朝食を毎日食べている	小	95.1	94.5	89.6	96.3	96.0	95.6
		中	90.9	93.9	93.4	93.8	93.5	93.5
②	自分にはよいところがある	小	69.6	71.9	70.6	75.7	76.1	76.4
		中	60.3	60.5	62.8	66.4	67.1	68.1
③	将来の夢や目標をもっている	小	87.4	83.8	86.1	87.7	86.7	86.9
		中	73.8	71.9	73.7	73.5	71.4	71.7
④	1日あたり1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする。(月～金)	小	***	19.6	19.4	***	15.1	16.9
		中	***	55.9	54.8	***	56.4	47.6
⑤	家庭学習の時間が30分以下(月～金)	小	19.1	25.3	22.2	12.2	12.7	12.1
		中	19.9	18.4	19.5	14.7	14.7	13.9
⑥	読書が好き	小	60.5	63.6	62.8	72.1	73.0	72.8
		中	51.2	56.6	54.6	70.1	69.4	67.9
⑦	学校に行くのが楽しい	小	86.1	84.4	84.8	85.0	86.6	87.0
		中	77.7	79.6	86.7	80.5	82.4	82.1
⑧	学校のきまりをまもっている	小	82.9	76.3	81.8	90.6	90.5	91.1
		中	89.4	94.9	93.8	92.5	93.0	94.4
⑨	人の気持ちが分かる人間になりたい	小	92.2	92.2	92.4	93.0	94.4	93.9
		中	93.7	95.1	94.9	94.2	95.3	94.9
⑩	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	小	96.1	93.3	96.3	95.9	96.4	96.2
		中	88.8	90.3	91.9	93.5	93.4	93.7
⑪	国語の勉強は好きだ	小	52.2	51.0	57.5	57.9	59.2	61.1
		中	43.7	58.8	58.9	57.7	58.2	60.5
⑫	算数の勉強は好きだ 数学の勉強は好きだ	小	57.5	55.9	64.9	66.2	66.1	66.6
		中	53.2	50.6	56.2	55.5	56.6	56.0
⑬	理科の勉強は好きだ	小	***	***	79.5	***	***	83.5
		中	***	***	55.9	***	***	61.9

課題等について

③・⑨の項目については、肯定的な考えが中学校では全国と同等あるいは上回っています。また、小学校においても差は縮まっており、改善傾向にあります。これらの傾向から、中学校において職業体験学習等をはじめとするキャリア教育の取り組みが進んできていると考えられます。また小学校においても、今後も日本サッカー協会による「夢先生」事業等を実施し、将来のことを考えたり、周囲の人への感謝について考えたりする取り組みなどを推進していきます。

⑩の項目は、特に中学校において全国よりも低い傾向が続いていましたが、差は縮まる傾向にあります。今後も人権教育を中心に一層取り組みを進める必要があります。

①については、小学校において下降傾向が強く、全国との差が開きつつあります。⑥については、小・中学校ともに変わらず10ポイント程度、全国より低い傾向が続いています。また、⑤についても、昨年度からの大きな課題が依然として続いています。これらの点については、学校でも引き続き、食育や読書教育、宿題の出し方の検討などを行いますが、家庭との連携も必要になりますので、ご協力をお願いします。

⑪⑫⑬の項目では、算数・数学で全国とほぼ同等であり、国語においては依然として全国より低いものの、差が縮まりつつある傾向です。理科については、小中学校ともに全国より低く、課題が残る結果となりました。

調査結果から

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果は、質問紙調査において、

「人の気持ちが分かる人間になりたい」

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」

という他者への思いやりに関する項目については、改善傾向にあり、規範意識が高まりつつあることがわかりました。

その一方で、

「朝食を毎日食べている」

の項目については、特に小学校での肯定的回答が下降し、全国との差も大きくなっており、課題であることがわかりました。朝食をとることにより身体にエネルギーを補給し、集中力ややる気、体力を発揮し持続させ、一日の身体のリズムを整えることができます。子どもたちの学力、体力とも大きく関わってくる朝食を食べる習慣づけについて、さらに啓発していく必要があります。

学力については、

「筋道立てた思考をし、自分の考えを書く力」

に課題があることがわかりました。日々の学習指導の中で、

「事象を論理的に捉え、自分の考え等を説明する活動」

「相手に伝えたい事柄を明確にして、わかりやすく書く活動」 等

効果的な言語活動を取り入れた学習指導を充実させ、思考力、判断力、表現力の育成を目標とした取組みを進めていくことに努めていきます。

また、筋道立てた思考をするには、文章の内容を正確に読みとる力が求められます。文章を読み取る力は、読書量と大きく関わりますが、質問紙調査において、「読書が好き」という肯定的な回答が少ないこと、「読書時間」が短いことが、依然として課題であることがわかりました。これについては、読書活動の機会設定、啓発等、さらに取り組んでまいります。

課題解決を行う方策としましては、平成25年度から、各小・中学校において**学力向上大作戦**と銘打って、各学校の学力改善策を検討し、それに基づいた学力向上のための取組みを行っております。今回の結果を受けて、上記の**朝食や読書の課題を重点**として、引き続き、ご家庭の協力をお願いします。また、学習においても、次ページに、**家庭学習を行う際に参考にしていただける資料及びワークシート**を掲載していますので、併せてご協力をお願いします。

【P16に各学校・高石市教育委員会の取組みと、地域・家庭の皆様にご協力いただきたい点をまとめて記載しております。】

今後とも高石市の教育にご理解、ご助力をいただきたく、また、地域・家庭の皆様と連携して高石市の子どもたちをよりよい方向に育てていきたいと考えております。どうぞよろしくをお願いします。

参考資料及びワークシート

各学校から出されている家庭学習のてびき等

高石っ子の学びを育む 家庭での過ごし方について

(高石市教育委員会から配布)

小学校1年生から中学校3年生まで家庭学習を行う際にヒント

となるポイント等についてまとめてあるリーフレットです。



高石市小中学校授業改善プランについて

(高石市 HP に掲載)

学力・学習状況調査の結果分析より、各小・中学校における

学力向上に対する取組みを掲載しています。

各学校が学力向上に向けて、どのように取り組んでいるか、

一度ご覧ください。

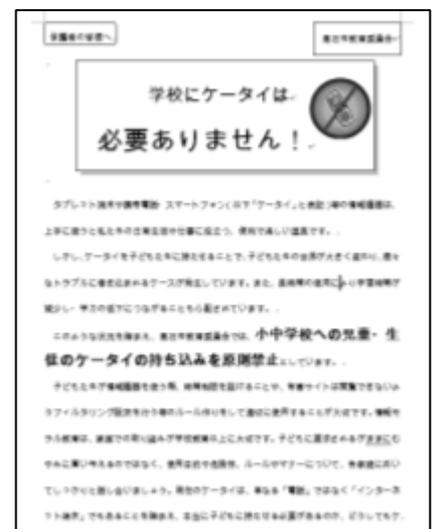
高石市立()小・中学校 学力向上大作戦プランニングシート	
H25年度全国学力学習状況調査の結果分析よりわかる各校の成果と課題について	
学年・年級に育成する学力	
本校の学力向上に関する取組みプラン(H25年度後半、H26年度)	
重点目標	具体的方策
○	【作戦1】 学力向上のための授業改善
●	【作戦2】 学習規律の確立・学習集団作り
●	【作戦3】 家庭学習・読書活動の推進
●	【作戦4】 継続的な取組みによる学校力の向上
各作戦の到達目標(具体的な目標項目を記載してください)	
【作戦1】	【作戦2】
【作戦3】	【作戦4】
【作戦1】 学力向上のための授業改善	【作戦2】 学習規律の確立・学習集団作り
【作戦3】 家庭学習・読書活動の推進	【作戦4】 継続的な取組みによる学校力の向上

ケータイ・スマホの使い方について

(高石市教育委員会から配布)

ケータイ・スマホ使用の家庭でのルールづくり・学校への

持ち込み禁止等、使い方についてまとめてあるリーフレットです。



自学自習力をはぐくむ ワークブック問題

(大阪府教育委員会が配信)

小・中学校全学年の児童生徒が、放課後学習や家庭学習において自主的に学習することができる教材です。
各学校でも活用しています。

HPアドレス <http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>



力だめしプリント・力だめしミニプリント

(大阪府教育委員会が配信)

小・中学校の児童生徒に身につけさせたい学力の中で、知識・技能を活用する力を問う学習教材です。
各学校でも活用しています。

HPアドレス <http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikaramini/index.html>



高石市教育委員会及び学校の取組み

★教育委員会が中心となって取組んでいること

- ◆各学校が立てた「学力向上大作戦」(P 1 4 参照)に基づいて、児童生徒が主体的、意欲的に活動できる授業づくりを推進していくために、示範授業の実施や指導助言等、指導主事が継続して学校を支援していきます。
- ◆学力向上専門員が各学校の授業を参観し、児童生徒への実践的指導力、学校体制づくり等の指導を行い、各校の授業改善に努めています。
- ◆外国語教育を推進することにより、子どもたちのコミュニケーション力の素地を育むとともに、児童、生徒と外国人留学生との交流等を通して、実践的に外国語を学ぶ機会を増やします。
- ◆小さい頃からのキャリア教育やスポーツ選手を招いて行う「夢先生」による夢の教室の実施等の体験活動を重視することにより、知識を実践に結びつける力や自分の将来について考えることができる素地を育成します。
- ◆市の教育課題に応じた研修を積極的に行っています。小中連携として中学校区でも、合同の研修会や学力担当者会議等を開催することにより、情報交換と共有を行い、教職員の資質・指導力向上を図っています。
- ◆3つの朝運動(朝食・あいさつ・朝読書)の取組みを継続しています。
- ◆放課後や、長期休業期間に実施する補充学習へのボランティアを募集し、学校での学習のサポート活動を進めています。

★各学校が現在取組んでいること

- (下記の内容は必ずしも全学校で取組んでいるのではなく、各小中学校が実態に応じて取組んでいます。)
- ◆指導内容・指導方法の工夫の推進
 - ・児童生徒が主体的、意欲的に活動できる授業づくりを推進していくために、指導主事による示範授業や指導助言等の支援を受け、授業改善に対する取組みの充実
 - ・調査から見える成果と課題を踏まえ、「学力向上大作戦」をもとに、学力向上に対する取組みの改善
 - ・習熟度別授業を取り入れた、少人数指導や複数教員による指導等、きめ細かな指導の充実
 - ・大阪府教育センター・大学等外部講師による指導・助言
 - ・実験・観察などの活用場面を取り入れた授業研究
 - ・児童・生徒が不得意とする記述式の問題等への対応のための指導工夫
 - ◆学習におけるつまずきの把握と補充指導の充実
 - ・放課後学習の実施
 - ・長期休業期間中の学習会の実施
 - ・「家庭学習のてびき」の作成、配布
 - ・効果的な宿題の取組み
 - ◆読書活動の一層の推進と充実
 - ◆学習規律の徹底を図り、より一層の「落ち着いた授業」への取組み
 - ◆あいさつ運動など基本的な生活習慣の向上のための取組み
 - ◆一人ひとりが尊重される集団づくりの実現
 - ・人権教育及び道徳教育のさらなる推進

地域・家庭にご協力いただきたいこと

- ◆朝食には、1日元気に活動するための準備をする役割があります。毎日朝食を摂るように家庭でのご協力をお願いします。
- ◆「他人を認め、自分を大切にすること(自己有用感)の大切さをご家庭でもお話していただきますようお願いいたします。
- ◆携帯電話・スマートフォンやゲーム機の使用など、家庭におけるルール作りと、そのルールの尊重について、子どもと話し合っていたいただきたいと思います。
- ◆各校における「家庭学習のてびき」等を参考にいただき、子どもたちの宿題の確認や、学校の予習・復習等の自主的な家庭学習に対する意欲向上へのご協力をお願いします。
- ◆ご家庭における読書の機会向上や子どもたちへの啓発についてご協力をお願いします。
- ◆学校のさまざまな学力向上等の取組み(授業支援や図書、放課後学習活動等のボランティア等)についてご協力をお願いします。
- ◆PTA活動へのご参加とご協力をお願いします。
- ◆各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。

3

六年生の山田さんの手紙では、「**「一体さんどんち話」**という本を読んで、紙しばいを作り、一年生に読み聞かせをすることにしました。そこで、山田さんのグループでは、その本の中から次の「びょうぶのどらのお話」を選び、場面の様子を「**四枚の絵**」に分けてかきました。あとの問いに答えましょう。

【四枚の絵】

【びょうぶのどらのお話】

の中の1から5までは、まじまじと読んでいます。



（絵1）

一体さんと、どのさまの話です。
 どのさまは、どんちで有名な一体さんを少し困らせてみようと思ひ、一体さんをおやしきに呼びました。そして、
 「これこれ一体、たのみたいことがあるが、聞いてはくれぬか。」
 「はい、なんでもしよう。」
 どのさまは、おそろしいどらの絵がかいてある、びょうぶを指さして、
 「実は、このどらじゃ、毎晩飛び出しては、やしきの中を暴れ回るのだ。」
 一体、このどらを暴れぬように、しばりあげてはくれぬか。」
 と言いました。



（絵2）

1 一体さんは、それを聞くど、
 「かしこまりました。」
 と言つて、さつと立ち上がりました。そして、
 「では、どらをしぼりあげるためのなわを貸してください。」
 と言いました。どのさまは、家裏に言いつけてなわを持って来させました。一体さんは、なわを受け取り、広間のすみに下がりました。
 2 では、これから、どらをしぼりあげます。どのさまや、家来の方々は、びょうぶの裏に回ってください。どらが飛びかかるといけませんから……」
 どのさまと家来は、言われるとおりにしました。一体さんが、何を始めるのかと思ひましたが、どりあえずびょうぶの裏に行きました。そして、にやにや笑ひながら、様子を見ていました。
 3 一体さんは、はちまきをしめ、たすきをかけて身じたくを整え、いよ



（絵3）

いよなわを手に持ち、びょうぶの前に進み出ました。それから、足をふんばり、びょうぶの前で構えて言ひました。
 「やい、どらめ。どのさまの言いつけでお前をしぼりあげるぞ。さあ、出て来い。勝負だ。」
 4 一体さんは、大まじめです。どらは、もちろん出て来ません。さう言つてから、
 「さては、おそれをなしたか。どらめ、出て来ないな。」
 「びょうぶの裏の家来の方々、そこで大声をあげて、どらを追ひ出してください。出て来ないとしぼれませんから。」
 5 それを聞いた家来たちは困りました。どのさまはおこり顔で、
 「何を言うか。一体、絵のどらが、追ひ出せると思ふか。」
 と言ひました。



（絵4）

「それはおかしい。先ほどのどのさまは、このどらが、毎晩飛び出して暴れ回るとおっしゃいました。ひとりりで飛び出すくらいです。家来の方々に追ひ出せないわけがないでしょう。」
 「ううむ。」
 どのさまは、うなづいて何も言えなくなつてしまいました。
 一体さんは、続けて、
 「それども、晩にならないと、出て来ないのでしようか。でしたら、今夜、もう一度やり直しましょうか。」
 それを聞いて、どのさまは、
 「もうよい、わしの負けじや。」
 と言ひました。

※1 「どんち」……その場ですぐに出るちえのこと。
 ※2 「びょうぶ」……部屋の中に入れて、おそろいや仕切りなどにするもの。

二 山田さんたちは、「びょうぶのどらのお話」のおもしろさについて、一生生にどのように伝えたいか話し合っています。次の「話し合いの様子②」をよく読んで、あとの(問い)に答えましょう。

【話し合いの様子②】

<p>山田 「休さんが家来たちに、「どらを追い出してください。出て来ないと思われませんかからね。」と言ったところがおもしろいよね。」</p>	<p>小川 「私もそう思うわ。どのさまが言った無理なことに対して、休さんがちえを断っておかしているところよね。どのさまはおこつて言い返したけれど、休さんに「それはおかしい。」と言われて、「ううむ。」とうなってしまっただけ。」</p>	<p>高木 「最後に、どのさまは、「もうよい。わしの負けじゃ。」と言ったけれど、どんな気持ちだったのかな。どんなふうに残むといいかな。いろいろな読み方を考えてみよう。」</p>
--	--	--

(問い) 「もうよい。わしの負けじゃ。」を、あなたならどのように声に出して読みますか。次の条件に合わせて書きましょう。

- (条件)
- 声を出して読むときにくふうすることを書くこと。くふうすることとしては、例えば、声の大きさや高さ、読む速さなどがある。
 - なぜそのように読むのかという理由を書くこと。理由には、あなたが想像したどのさまの気持ちを取り上げること。
 - 四十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

解説 B区分(主として「活用」に関する問題) 3の(二)

登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することができるかどうかをみる問題です。

この問題では、物語の場面の移り変わりを捉え、登場人物の気持ちの変化を想像しながら声に出して読むときの工夫とその理由を書くことが求められています。

事象と根拠を関連付けて文章を書くこと、相手にわかりやすく整理された文章を書くことに課題が見られます。

小学校算数

1

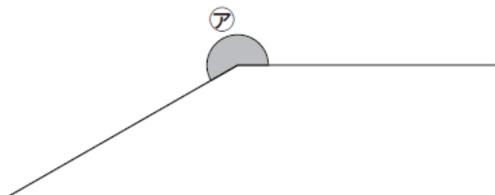
次の問題に答えましょう。

(1) $8.9 - 0.78$ のおよその答えとしてふさわしいものを、下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1
- 3 0.8
- 4 8

4

アの角の大きさをはかります。



(1) アの角の大きさについて正しいものを、下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 90° 未満である。
- 2 90° 以上で、 180° 未満である。
- 3 180° 以上で、 270° 未満である。
- 4 270° 以上で、 360° 未満である。

解説

A 区分（主として「基礎」に関する問題） 1 の (1)

小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができるかどうかをみる問題です。

この問題では、大きな計算の誤りを防ぐために、概数を用いて計算の結果の見積りをする力が求められます。

計算の手順を理解するだけでなく、場面や状況に応じて計算の結果を適切に見積もる力に課題がみられます。

4 の (1)

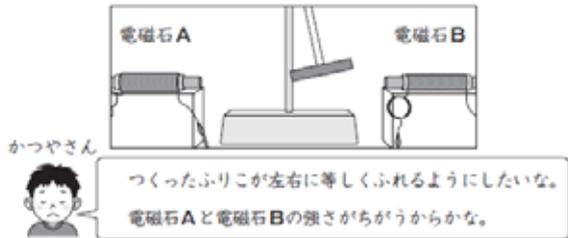
180° よりも大きい角のおよその大きさを直角を基に捉えることができるかどうかをみる問題です。

この問題では、測定の結果の妥当性を判断したり、誤りを防いだりするために、直角を基にして角の大きさの見当を付ける力が求められます。

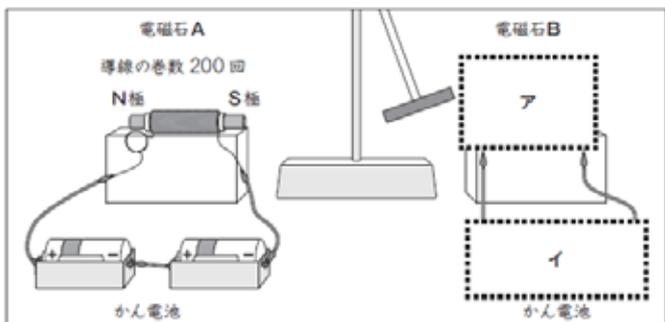
角の大きさが、2 直角、3 直角よりも大きい場合についても、直角を基にして角の大きさの見当を付ける力に課題がみられます。

小学校理科

(5) かつやさんは、つくったふりこを動かしてみました。すると、つくったふりこは、右側ばかりにふれて、左右に等しくふれませんでした。



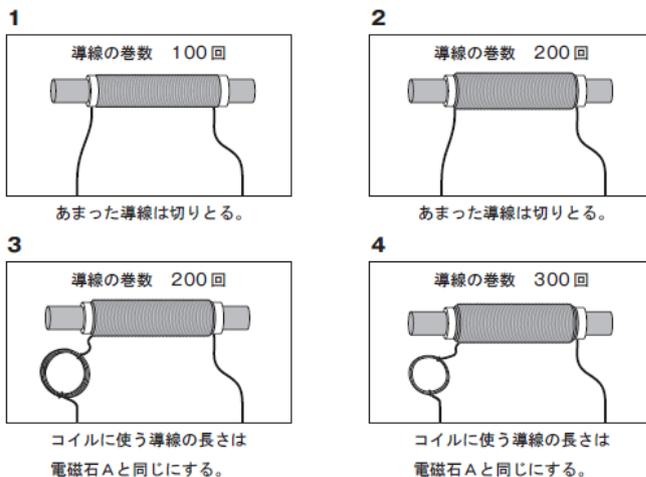
そこで、かつやさんは、電磁石Aと電磁石Bの強さが同じになるように、つくり直すことにしました。



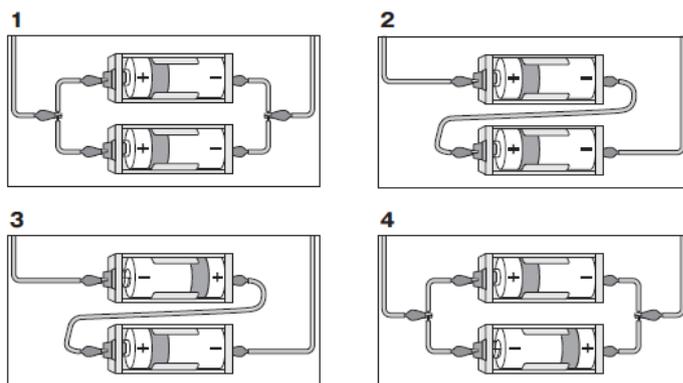
2つの電磁石を同じ強さにするには、電磁石Bの導線の巻き方とかん電池のつなぎ方をどのようにすればよいですか。

上の図の「ア」にあてはまるものを次のページの【導線の巻き方】の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、上の図の「イ」にあてはまるものを次のページの【かん電池のつなぎ方】の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

【導線の巻き方】(巻く方向は電磁石Aと同じにする)



【かん電池のつなぎ方】(真上から見た図)



解説 (主として「活用」に関する問題) 1 の(5)ア・イ

電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できるかどうかをみる問題です。

この問題では、電磁石の性質や働きを活用し、目的とする動きや働きになるように、コイルの巻き方や乾電池のつなぎ方を考える力が求められます。

事象に科学的な規則性を適用し、科学的な思考、表現をする力に課題がみられます。

という要望について回答します。

二 【回答案A】の冒頭に、次の文を入れて掲示することにした。□に当てはまる適切な言葉を十八字以内で書きなさい。

【要望】

美化委員会へ
 美化委員会に要望があります。
 現在、美化委員会では毎朝花壇に水やりを行っています。
 それを、放課後も行ってはどうか。これからの時期は暑くなり、朝の水やりだけでは足りないと思います。
 ぜひ、検討してください。

【回答案A】

委員会で検討したところ、「指摘はもっともだ」、「放課後は、委員も部活動に出るのでできない」など、様々な意見が出されました。その結果、「委員だけで放課後に水やりを行うことは難しい」ということになりました。
 そこで、生徒の皆さんからもボランティアを募集して、放課後の水やりを行っていくことにします。
 美化委員長 小林 太郎



【回答案B】

委員会で検討した結果、「委員だけで放課後に水やりを行うことは難しい」ということになりました。そこで、生徒の皆さんからもボランティアを募集して、放課後の水やりを行っていくことにします。
 話し合いの中では、「指摘はもっともだ」という意見もあった一方で、「放課後は、委員も部活動に出るのでできない」という意見が出され、このような結論になりました。
 美化委員長 小林 太郎

7 次は、美化委員会に対して寄せられた【要望】と、美化委員会が掲示する予定の【回答案A】、【回答案B】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

解説 A 区分（主として「知識」に関する問題） 7-二

伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかをみる問題です。

投書に対する回答を文章に書く際には、相手が求めている事柄を的確に捉え、それに対して必要な情報を過不足なく書く力が必要になります。

事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くことに課題がみられます。

2 (2) 赤いテープと白いテープの長さについて、次のことがわかっています。

赤いテープの長さは a cm です。
赤いテープの長さは、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍です。

白いテープの長さは何 cm ですか。 a を用いた式で表しなさい。

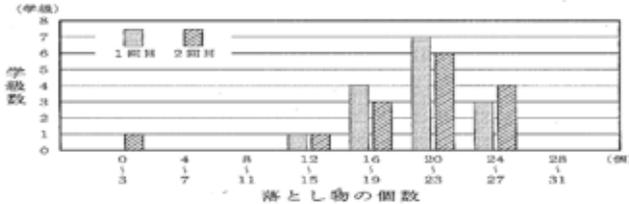
5 生活委員会では、落とし物を減らすために、全 15 学級で落とし物調査を行うことにしました。調査を同じ日数で 2 回行ったところで、拓也さんと優香さんは、その結果を表とグラフにまとめました。優香さんが作ったグラフでは、例えば、落とし物の個数が 12 個以上 15 個以下だった学級が、1 回目、2 回目とも 1 学級ずつあったことを表しています。



拓也さんが作った表

	1 回目	2 回目
種類		
文房具	201	212
ハンカチ・タオル	49	28
その他	55	50
落とし物の合計	305	290
落とし物の合計の平均値 (1 学級あたりの落とし物の個数)	20.3	19.3

優香さんが作ったグラフ



(3) 二人は、落とし物を減らすための対策について話し合っています。

拓也さん「落とし物が少ない学級では、持ち物に記名するよう
にしているみたいだよ。」
優香さん「次は、記名のある落とし物とない落とし物を分けて
数えて、取り組みのよい学級を表彰したらどうかな。」
拓也さん「記名のある落とし物を 1 個 1 点、ない落とし物を
1 個 2 点として集計し、表彰する学級を決めよう。」

下線部の考えをもとに表彰する学級を決めます。記名のある落とし物を a 個、記名のない落とし物を b 個としたとき、表彰する学級の決め方として正しいものを、下のアからエまでのの中から 1 つ選びなさい。

- ア $a + 2b$ の値が最も大きい学級にする。
- イ $a + 2b$ の値が最も小さい学級にする。
- ウ $2a + b$ の値が最も大きい学級にする。
- エ $2a + b$ の値が最も小さい学級にする。

解説

A 区分 (主として「知識」に関する問題) 2- (2)

赤いテープと白いテープの数量関係を文字式に表わすことができるかどうかをみる問題です。

文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現する力に課題がみられます。

B 区分 (主として「活用」に関する問題) 5- (3)

結果を振り返って立てられた新たな構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を的確に解釈することができるかどうかをみる問題です。

日常生活や社会における問題に対して、資料を用いて傾向を捉える力や事象の中に数量の関係を見出し、説明する力が必要になり、その点において課題がみられます。

- 2 若菜さんの学級では、先生が飛行機に乗ったときに撮影した写真や天気図などの資料をもとに気象について学習しました。
(1)から(4)までの各問いに答えなさい。



資料1 (S島に関すること)

- 図1は、1月24日に南側から撮影したS島の写真。
- 図2は、S島を撮影したときの天気図。
- 図3は、S島を撮影したときの、風の吹く方向に沿ったS島の断面図。
- 表は、S島の1月23日から1月25日までの1日の平均気温と1日の平均湿度の記録。

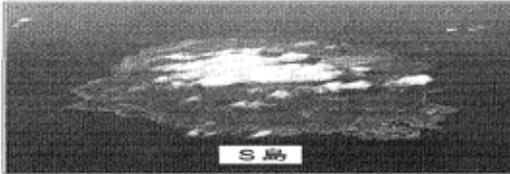


図1

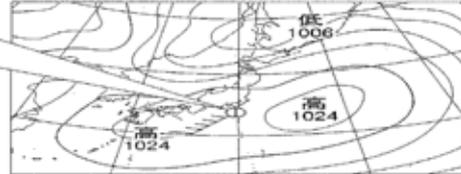


図2

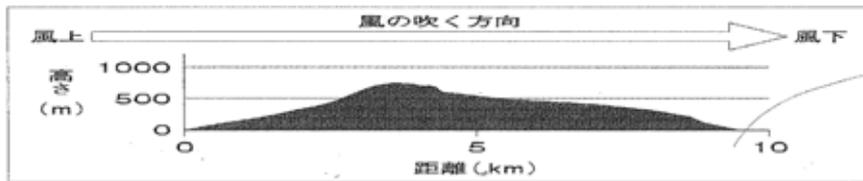


図3

表	月 日	1月23日	1月24日	1月25日
1日の平均気温(℃)		5.9	9.2	12.6
1日の平均湿度(%)		66	71	64

- (3) 若菜さんは、S島の上空だけに雲ができることに疑問をもったので、資料1の図2、図3と表をもとに、その理由を下のアからエのように考えました。その理由を見直したところ、誤りに気づきました。誤りのあるものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。また、選んだものを正しく書き直しなさい。

- ア 水蒸気を比較的多くふくんだ空気のかたまりは、S島の山の斜面に沿って上昇する。
- イ 上昇した空気のかたまりが膨張し、温度が下がる。
- ウ 空気のかたまりの温度が、露点に達する。
- エ 水滴が冷やされて水蒸気になり、雲ができる。

解説 (主として「活用」に関する問題) 2- (3)

雲の成因に関する知識を活用して、資料を基に他者の考察を検討して改善し、水の状態の変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができるかどうかをみる問題です。

天気図や地形の断面図、気温や湿度などの複数の資料を使って、島の上空だけ雲ができる理由を多面的・総合的に考察する力や水の状態変化や大気圧などの関連する知識を整理する力が必要となり、その点に課題がみられます。